

一 妙法蓮華經序品第一の事

玄師の伝に云はく「一切經の総要とは、謂はく妙法蓮華經の五字なり」と。又云はく「一行一切行恒に此の三昧を修すと。云ふ所の三昧とは、即ち法華の有相無相の二行なり。此の道理を以て法華經を読誦せん行者は即ち法具の一心三觀なり」云云。此の釈に一切經と云ふは、近くは華嚴・阿含・方等・般若等なり。遠くは大通仏より已來の諸經なり。本門の意は寿量品を除きて其の外ほかの一切經なり。総要とは天には日月にちがつ、地には大王、人には神たましい・眼目の如くなりと云ふ意をもって釈せり。此即ち妙法蓮華經の枝葉なり。一行とは妙法の一行に一切行を納めたり。法具とは題目の五字に万法を具足すと云ふ事なり。然る間三世十方の諸仏も、上行菩薩等も、大梵天王・帝釈じゅうらせつによ・四王・十羅刹女てんしょうだいじん・天照太神・八幡大菩薩・山王二十一社、其の外日本国中の小神大神等、此の經の行者を守護すべしと法華經の第五の卷に分明に説かれたり。影と身こゑと音と響きとの如し。法華經二十八品は影の如く響きの如し、題目の五字は体の如く音の如くなり。題目を唱へ奉る音は十方世界にとづ届かざると云ふ処なし。我等小音なれども題目の大音に入れて唱へ奉る間、一大三千界に至らざる処なし。譬へば小音なれども貝ばいに入れて吹く時は遠く響くが如く、手の音わず纒つづみかなれども鼓を打つに遠く響くが如し。一念三千の大事の法門とは是なり。かゝる目出度めでたき御經にて渡らせ玉そしへるを、謗むげんる人何ぞ無間に墮在せざらん。法然・弘法等の大悪知識とは是なり云云。